

2025年2月に鶴岡市に対して2,000万円を寄付しました。『企業版ふるさと納税』の仕組みを活用し、寄付金は全額奨学金返済支援制度「つるおかエール」に利用されます。

2025年4月に鶴岡市役所で寄付金贈呈式が開催され鶴岡市長より表彰されました。



右: 皆川市長 左: 成田代表取締役社長

奨学金返済支援事業

若者の地元回帰を促進するため、市内への居住・就業を条件に、奨学金返済額に応じて最大201.6万円の支援金を支給します。

ご寄附は将来の若者の奨学金返済支援の財源として活用いたします。

つるおかエール
奨学金返済支援制度

関連するSDGsのゴール



2025.04.08 付 山形新聞

シンクロンは鶴岡市に2000万円 企業版ふるさと納税

精密機械製造業のシンクロン(横浜市、成田正哉社長)は3日、企業版ふるさと納税制度を活用し、鶴岡市に2千万円を寄付した。市内の学生などを対象とした奨学金返済事業に役立てられる。

同社は市内に工場を設け、カメラレンズや眼鏡、タブレットの液晶に使われる反射防止膜など、真空薄膜を形成する装置の製造販売を手がける。市の人材育成に貢献したいと今回、売り上げの一部を充てた。

贈呈式が市役所で行われ、成田社長が皆川治市長に目録を手渡し、「鶴岡の工場が発展したのは市内の優秀な人材のおかげ。これまでの縁に感謝の気持ちをこめた」と話した。皆川市長は「大変ありがたい。地方創生に向け、一層取り組んでいく」と感謝を述べた。

人材輩出に感謝込め シンクロン 2000 万円寄付 鶴岡市へ 企業版ふるさと納税活用

鶴岡市に工場を持つ精密機械製造のシンクロン(本社・神奈川県横浜市、成田正哉代表取締役社長 CEO)は 3 日、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)を利用して「奨学金返済支援事業に役立てて」と鶴岡市へ 2000 万円を寄付した。

企業版ふるさと納税の推進支援に関する契約を鶴岡市と締結している山形銀行(本店・山形市)がシンクロン側に鶴岡市の各種事業を紹介し、今回の寄付につながった。

この日、寄付贈呈式が鶴岡市役所で行われ、シンクロンの成田社長をはじめ役員など 4 人と同銀行関係者 3 人が来庁。成田社長が皆川治市長へ寄付目録を手渡し、皆川市長が感謝状を贈った。続いて皆川市長が「若者の地元回帰には魅力的な働く場所が必要。シンクロン鶴岡工場は 140 人余りが勤務しており、雇用の面でもお世話になっている。今回の寄付を機に一層地方創生へ力を入れたい」、成田社長が「鶴岡工場は鶴岡工業高や鶴岡高専などから優秀な人材が入り発達してきた。工場建設のご縁や人材輩出に対する感謝の気持ちを込めて今回の寄付を決めた」とそれぞれあいさつした。

寄付金は「つるおかエール奨学金返済支援事業」に活用される。同事業は若者の地元回帰、地元就職を目的とする。学生や県外在住の社会人を対象に、鶴岡市への居住、就業を条件として奨学金の返済を支援する。

※シンクロンは 1951 年創業。眼鏡やカメラレンズに使われる反射防止膜を生み出す「真空薄膜形成装置」の研究開発、設計、製造販売、技術サービスに取り組んでいる。光学製品の多様化に伴う生産能力拡大のため、89 年に創業者の出身地である鶴岡市の鶴岡中央工業団地に新工場を建設。毎年のように工業系新卒者を採用するなど地域雇用に大きく貢献している。反射防止膜はスマートフォンやタブレット、極小の電子部品などにも使われており、特に近年はスマホの普及、発達に伴い、同社でも新技術の開発、導入が著しい。今年 3 月期の同社の売上は過去最高の約 350 億円で、今回の寄付は収益の一部を活用した。



右:皆川市長 左:成田代表取締役社長